

肥後銀行 100年史

発刊のご挨拶

うるおいある未来のために。



肥後銀行は2025年7月25日をもちまして創立100周年を迎えることができました。

当行は1925(大正14)年7月25日に、熊本・飽田・植木の3行の合併により、肥後協同銀行として誕生し、3年後の1928(昭和3)年に肥後銀行へ商号を変更しました。2015(平成27)年10月には、鹿児島銀行と経営統合し、九州フィナンシャルグループとして、未来を先取りした一歩を踏み出しています。

100年を顧みますと、その歴史の中には、金融恐慌や世界大戦、バブル崩壊やリーマンショック、そして熊本地震や度重なる豪雨災害、コロナ禍など、幾多の困難がありました。今日まで地域とお客様のために最善を尽くしてまいりました。その結果として、当行が地域の皆様とともに成長し続けることができましたのは、ひとえにお客様をはじめ、地域の皆様の温かいご支援とご愛顧の賜物と心より感謝申し上げます。また、今日の当行発展の礎を築かれた諸先輩方のたゆまぬご努力に対しまして、改めて深い敬意と感謝の念を表する次第です。

現在、私たちを取り巻く環境は、SDGsやDXに代表されるように、社会や経済のあり方が大きく変化するパラダイムシフトの時代を迎えております。私たち肥後銀行も、これらの変化に柔軟に対応しながら、地域金融機関としての使命を果たし続けるため、理念を基軸に、ブランドスローガン「うるおいある未来のために。」を掲げ、持続可能な地域社会の実現に向けた取組みを進めております。

次の100年に向け、お客様とともに歩み、地域の「うるおいある未来」を創造していくために、今後も全力で邁進してまいります。

このたび、創立100周年を迎えるにあたり「肥後銀行100年史」を発刊することとなりました。創立以来、地域の皆様とともに歩んできた当行の歴史や、地域経済の発展に寄与するべく取り組んできた活動の記録、またその時代の国内外の動きや出来事についても収めております。本書を通じて、当行が地域金融機関として地域とともに歩んできてまいりました姿をご理解いただき、ふるさと熊本の未来をともに築く一助となることを願っております。また役職員にとりましては、歴史に学び、未来への指針となれば幸いです。

今後ともより一層のご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げまして、発刊のごあいさつといたします。

2026年3月

株式会社 肥後銀行
代表取締役頭取

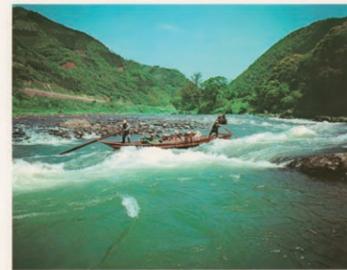
笈原慶久

行歌

作詞 工藤 一四
作曲 笠井 義雄
編曲 滝本 泰三

行歌 郷土と共に栄える

1. 光呼ぶ大阿蘇の空
かがやく地平
豊かなる郷土に奉仕すあれら
いざ伝統の旗高くかざして
肥後銀行
経済の使命ともに果さん



2. 流れ寄る球磨川の水
溢るる希望
勤しめる家庭に奉仕すあれら
いざ発展の道園く手を組み
肥後銀行
共栄の誓いともに果さん



3. 新潮の有明の海
明けゆく未来
伸びやまぬ祖国に奉仕すあれら
いざ生産の鐘強く鳴らして
肥後銀行
興国の理想ともに果さん

 肥後銀行

行章



徽章

1925(大正14)年創立と同時に制定されたマークはであり、これは易学地天泰の卦の外卦を引用したもので、「万事意の如く通ずる時、売買に大利あり、家内和合、一家安泰秩序整う」という意味を表し、3行合併による新立銀行の融和安泰と発展隆昌とをシンボルとしたものである。その後1940(昭和15)年に、当時後援銀行であった安田銀行のマークにちなみ、卦の内卦を引用することに改めた。

なお外枠は、熊本城主加藤清正公の蛇の目の紋所にちなみ制定したものである。



ブランド

ブランドスローガン

うるおいある未来のために。

シンボルマーク



当行のイニシャル「H」と「∞」(無限)をモチーフにしたデザインは、永遠に続くうるおいのサイクルである“潤環”[※]を表現しています。

また、中央のスクエアでつながる造形は、当行が環境やお客さまといったさまざまな要素や事象を、つなぐ存在でありたいとの思いを込めています。

[※]潤環:「うるおい(潤い)」と「循環」を組み合わせたオリジナルの造語。

行旗

ブランド

ブランドコンセプト

ふるさとの水とみどりを大切に育み、まごころと創意工夫に満ちたサービスでお客さま一人ひとりの未来を拓いていきます

カラー



地下水をイメージした青の“アクア・ブルー”は、思いやりやまごころといった誠実さを表しています。また、みずみずしく輝く緑をイメージした“リーフ・グリーン”は、創造性や未来感を表しています。

肥後銀行企業理念

1. お客様第一主義に徹し、最適の金融サービスを提供します

私たちは、お取引先、株主様をはじめとしたお客様が、当行に対して何を望み何を期待しておられるのかを的確につかみ、その期待に十分お応えするため、個々のお客様にふさわしい最適な金融サービスの提供を目指します。

2. 企業倫理を遵守し、豊かな地域社会の実現に積極的に貢献します

私たちは、社会における当行の使命と役割を十分認識し、基本常識に沿って、高い倫理観を持って行動します。そして、地域とともに歩む金融機関として、地域社会の真の発展に貢献できる銀行を目指します。

3. 創造性に富み、自由闊達で人間尊重の企業文化を確立します

私たちは、常に新鮮な目で仕事を見つめ、自らの創意工夫で主体的に仕事にチャレンジする雰囲気職場全体に広げ、コミュニケーションが行き届いた風通しのよい企業文化を育んでいきます。そして、活気にあふれた新しい企業イメージを形成していきます。

九州フィナンシャルグループ理念体系

わたしたち九州フィナンシャルグループは、パーパス、ビジョン、バリューの理念体系を基軸として、地域の未来を創造していきます。

パーパス
(存在意義)

PURPOSE

私たちは、お客様や地域の皆様とともに、お客様の資産や事業、地域の産業や自然・文化を育て、守り、引き継ぐことで、地域の未来を創造していく為に存在しています

ビジョン
(目指す姿)

VISION

お客様、地域、社員とともに、より良い未来を創造する
『地域価値共創グループ』への進化

バリュー
(価値観・行動指針)

VALUE

誠 実 …… 高い倫理観を持って行動する
主 体 性 …… 自ら考え、失敗を恐れずに行動する
チ-ムKFG …… 志を一つに、グループの最適を考えて行動する

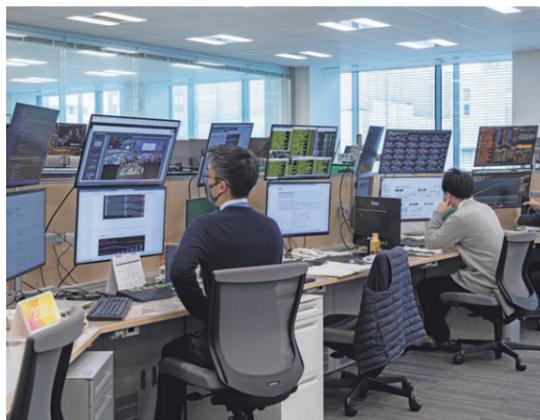


創造的復興から 地域価値共創へ

熊本城は築城以来多くの人々を惹きつけ、熊本市民の心のよりどころとなってきました。熊本地震の被災から復興のシンボルとして最優先で復旧作業が進められ、大天守の最上階からは、熊本市内や遠く阿蘇の山脈を見渡すことができます。

また、熊本城で築城当時の姿で現存する宇土櫓は2032(令和14)年度に復旧予定として解体保存工事が行われています。

熊本県が掲げる「持続可能な新しいくまもとの創造」とともに、当行は「地域価値共創の進化」に取り組んでいます。



地域とともに、 未来を創る

肥後銀行は、地域価値共創を軸に、
主体性・多様性・DX対応力を
兼ね備えた人材を育成しています。
自ら学び、挑戦し、成長する
行員一人ひとりが、お客様を支え、
地域の未来を支える力となっています。





本店ロビーの様子



1935年

2015年

時代とともに、地域とともに

変わる街、変わる人。

100年の変化の中で、守り続けたのは地域への想い。

そして今、私たちはお客様・地域とともに、新しい価値を共創し、
未来を切り拓く『地域価値共創グループ』へと進化を続けています。

通帳



1975年



2015年



2025年

窓口の様子



1990年



2025年

合鑑



1960年



1992年

2009年

発券機



2025年 総合EQシステム

ATMコーナーの様子



1995年



2025年

会議の様子



1960年



2025年

下通の様子



1996年



2025年

空港の様子

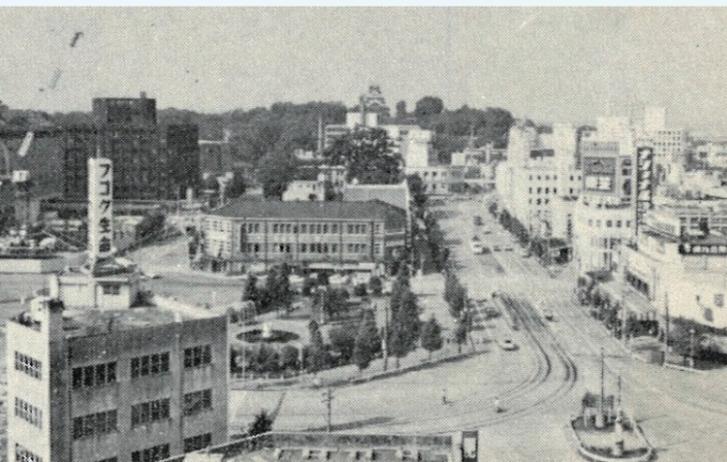


2025年



2020年

辛島町交差点の様子



1972年



2025年

熊本駅の様子



2025年 (提供:熊本県観光連盟)



1955年



2025年



2018年

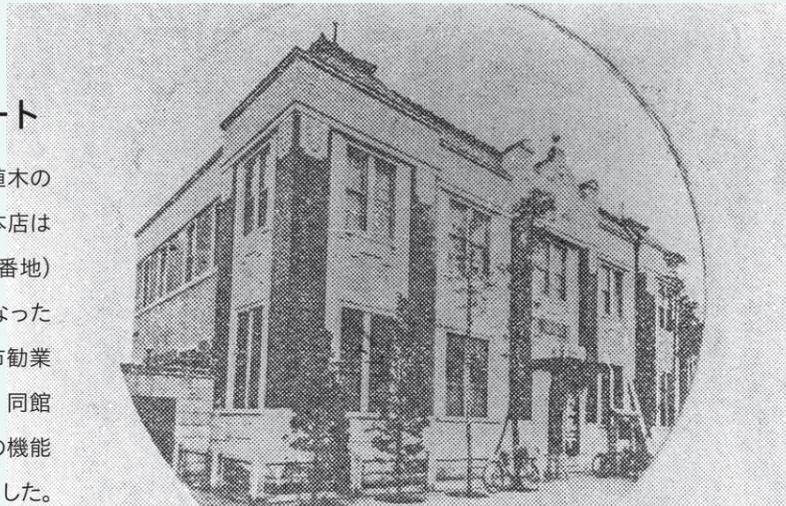
本店の歴史

当行の前身である肥後協同銀行の本店は、郷土銀行にふさわしい旧熊本銀行本店に置かれた。その後、業務の拡大に伴い新築した本店は、白亜・ルネッサンス様式のたたずまいを経て、現本店ビルの基本コンセプト「街にひらかれ、街につながるデザイン」に表されているように、地域の方々に親しまれる建築を模索してきた。

1925

旧熊本銀行本店からスタート

1925(大正14)年7月25日、熊本・飽田・植木の3行合併により発足した肥後協同銀行の本店は旧熊本銀行本店(熊本市紺屋町1丁目26番地)に置かれた。業務の拡大とともに手狭になったことから、1944(昭和19)年11月、熊本市勸業館(同市花畑町77番地)の後に移転した。同館は熊本市が運営していたが、戦時下でその機能を停止していたことから、借り受けることにした。



1951

ルネッサンス様式、白亜の本店を新築

戦後の業務の進展に伴って、勸業館も手狭になり、当行は本店社屋の新築を決意する。勸業館からわずか100mほど離れた熊本税務監督局跡(熊本市練兵町1番地)を買収。1950(昭和25)年3月起工、翌1951年5月に竣工した。新社屋(のちの本店営業部)は、鉄筋コンクリート一部鉄骨造りの地上3階・一部地階付だった。戦後熊本県で建てられた本格的な鉄筋コンクリート造り建築の第1号で、白亜・ルネッサンス様式のたたずまいは当行発展のシンボルとして、全行員の喜びはひとしおであった。

1965

本店別館と事務センターを新築

1965(昭和40)年9月、業務拡大に伴い、別館の新築工事に着手し、翌年10月に竣工した。別館(のちの本館)は地上5階・地下1階建てで、電子計算機などの導入を想定し、1㎡あたり450kgの重量に耐えられるように設計されていた。その後、事務の集中化、電算化を図るなかで、さらに高性能の電算機を導入することになり、1971年10月、本店敷地内で事務センターの建設に着手。翌年7月に竣工した。ここに本格的なコンピューターバンキングシステムの第一歩を記すことになる。事務センター(のちの別館)は地上8階・地下1階建て。



2015

新本店ビル「自然との共生 環境との調和」

2011(平成23)年6月、本店建替えの概要を発表した。本店敷地内に本店営業部、本部、別館の3棟があり、それぞれ老朽化して耐震性などが懸念されるとともに、オフィスとしての機能や利用者の利便性にも欠ける面があったことから計画を進めていた。基本計画のテーマは、「自然との共生 環境との調和」。建築可能な容積の4割を街にひらかれた空間に提供した。2013年1月起工、2015年2月竣工し、5月7日から業務を開始した。